



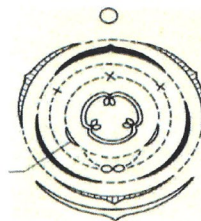
marge 47

マルジュ

あなたのそばの
保険代理店
グット・ライフ



ラン展のおおかたは冬。育て易いデンドロのノビル系と、交配しても冬咲性を譲らないカトレアの女王トリアネが咲くから。趣向を狙い、妍を競う交配種は飽きが早い。カトレア系原種に限っても花は一年を通じ途切れがない。この地湘南には、蘭屋多し。ぶらっと出かけてみてはいかが。香魂一過。クイーンはトリアネ。では、キングと称されるのは？



前号の答え「ラン亜科」

あなたの身近な問題を考えるのが、私たちグット・ライフの仕事です。ぴったりサイズの保険をおおつらえ致します。

あなたのそばの保険屋さん

神奈川・平塚・立野町3905

八間通り沿い、済生会病院並び北八八歩

グット・ライフ

goodlife@cosmos.ocn.ne.jp

Tel 0463-37-1955

Fax 0463-37-1966



We wish "May be your good Samaritan every night and day."

クール・ビスが、き、ら、い、タ(以下、すいぶんと乱読)。
ノー・ネクタイ?、そりゃ噴け飯もんだ、セピロとタイは元来セツトだろうが。ランチで椀物やスープ無かったら、そりゃ定食とかセツトって言わんだらうが。、「ですから、タイなしで決まるシャツをご用意しました」って!、そういうシャレたのは、オレさまに、とんと似合わんだらうが。、やんなるぜ。
そもそも、私はセピロがきらいです(似合わないから、か?)。あれは冬冬冬に夏、あれももう冬!の英國の衣服でして。土台高温多湿、この地に不向きです。「亜熱帯」なんて生地が無くなつたけど(あまりにビタリで嫌気されたんです、たぶん)、和術洋才で背広に仕立てても、無茶なとこに來てるんです。さっさと、仕事着は止めちゃいましょ(服屋よ、許せ)。かりゆしウェアとかハンパせず、どうせならバカンスといきましょ!、パンツいっちゃよが快適(トップ・レスが素敵!)。休め、休め、二か月くらい。ムリ?、じゃ、ネクタイ、します、堅物ですから。(夏の疲れが出、車の事故が頻発するのは彼岸頃でしたが、近年ではひと月遅れ。蓄積する疲労に気づかぬほど。ご留意を。)なら、シャツにネクタイのみでよいか。これは不躰な身なりと、フランスの先生からやんわり教えられた。上着なしの不埒には、講義のまえに「メタ・ベストン/上着着用」と言い渡される。の前の出ないです(すきりトップ・レスで果敢に臨むお茶目がいいたら、降壇なさつただらうか。裸族と交わる、地肌は文化人類「楽」者だから、ひよっとすると.....。「ボン、エガリテ/よろ

まぢかど
しい、平等だ」と、ムツシユ、勇み脱ぎ出したかもしれんが)。醇風とはたがえど、人前では一旦は上着姿になる。今日も真夏日。汗ばむ腕を通すには袖がほしい。薄手の長袖が好ましい。べつの事情もある。自分で洗濯し、シャツに毎週アイロンをかける。結構好きなんです。これ、これ。イーシュー・ケアでは物足りない。うまく熨「のせると、しわくちやした時間がリセットされる、その爽快感が味わえぬ。道楽の部類だから、こたわる。袖口のボタンは邪魔で、ダブル・カフスにする。シャツだけ分けて洗うが、胸ポケットにクズがたまると、気になるから、ポケットは付けない。所詮労働着だが、なんやかんや註文がつく。オーダーなら、スーツ下のおさまりが違う(補正に矯正!、パッド?、!!、は入らんが、シャツは男のブラジャー.....乱調おしまい)。ひいきの服屋がある。なじみのきつかけは、ひよんなことだ。私はざぶりと顔を洗い、ちよこちよこ手を洗う、市販のハンカチでは、とくに夏場は用が足りない、タオルはポケットに収まらず、何枚もの携行は面倒だ、思い立って布をかがって見たが、伎倆にとほしい、とある店でほやいた。三週間後届いた荷にハンカチが忍ばせてあった。取り取りの色柄柄物あり。愉快。広げると手ぬぐい型の、囁望の大判。聞けば、店主の奥方の心尽くし以来マスト・アイテムだ。ハンカチたのしみにシャツを頼む。定義は忘れやすい。銘記しよう。先様が評価する果実をサービストという。なりわいを通じ、喜びを分かとうと働くとに出会う。明日もハンカチのかがり糸に目を落とし、なにかを結ぶ。

「わたしたちが待っているのは、まさに われ=われなの(だ)」

"We are the ones we have been waiting for."

June Jordan [1980]

ジュン・ジョーダン

◇ 友人の一人に山井君がいる。彼は呉服店の長男として生まれ、大切に育てられた。

彼の父親は農家の三男坊、小学校を卒業すると間もなく、遠縁の呉服屋に丁稚として出され、商売を覚えた。長い年月が過ぎ、やがて彼は主人の信任を得て一人娘と結婚、後継者となり、順調に商売を広げていった。そして山井君が誕生した。

山井君は大学を出て暫くアパレル関係の間屋に勤め、気楽なサラリーマン生活を送り、彼女を仕留めてからは実家の呉服屋を継ぎ今日に至っている。

◇ かつて良かった呉服商売は、ご時世の影響で苦戦を強いられ、呉服だけでなく洋服や洋装品も商売したいと考えた。新しい商品知識・商売のノウハウ等を会得することや改装資金調達など課題は多かった。しかし彼の計画の致命的な障害になったのは、なんと父親の頑固な意志であった。

◇ 父は言う「お前が一人前になったのは、私が手塩にかけて育てたからであり学費だけでも大変な金額だ。お前は私の子だ。私の意志に反した行動は許さない。いくら世の中が変わっても、欲を出さずに呉服を商売していれば、生活には困らない。それでも洋服や洋品を売りたい親子の縁を切るから勝手に自分の道を歩け」

◇ 山井君は'71年生まれた。「自分は充分親孝行をしてきたが親はいつまでも自分の所有物として独り占めし、子の自由意思を認めない。それが子供の成長と自立の妨げになっていると気づかない。立派に社会人に育てたのだから次代を背負う息子の計画を喜んで応援して欲しい」と理解を求めている。しかし時は進む。解決のない空白の時間は過ぎる。更に時は進む。

◇ 私は思う。「親は自分の強欲のために、いつまでも子を縛らず、理解し自由を与え、解放すべきだ！子は全力で疾走する。『やるな・出来ない』ではなく『やれ・できる』、これが親子の成熟した信頼関係ではないか。先覚の経験は後進のエネルギー源だ」と。



【若い隣人への手紙 つづき】

私自身、いっぺん、からだをツブしているの、書いときます。あなたに、留意してほしいのは、過適応、です。

うまくやろうとして、うまくはいく(いってないかもしれないが)。いずれ、無理がかかってくる、そういうものです。境界への過度な応対は、身体の不調としてのちのちに現れます。不調とは、緊張感やら疲労感などが鈍麻されていった結果です。「お出かけ」に「旅行」、たのしいことでも、それなりに疲れるでしょう？ この心地よい疲れが、まっさきに剥奪されます。この闘いさをこえないようにね。意識されえず、身体がきしんでいきますから。

よく風邪をひいたりするようになったら、要注意。身体が日常にたまった毒をデトックス(排泄)しようとしているのです。「風邪の効用」(野口晴哉)です。三日が頃合いですが一日でもいい、まるまる休みましょう。回復の限界をこえると、病をよびこみます。ストレスは、その種類によって、ある器官に変調が顕著に集約される。よく知られる現象です。体験のない身体症状を感じたら、感じられるうちに、「からだの声に耳を澄ま」(デムトラコボロス)してみてください。

加えて、気付にくいのは、あなたの社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)が毀損されていくこと。家族や友達と過ごす時間がだんだんと持ちづらくなる。拘束時間が長くなったり、あるいは、仕事から抜けず、プライベート性が侵食される。気持ち切り替えられない状態に追い込まれていく。「なしくずし」社会ですから、徐々に自分で、確と一線を引き、矩をこえないと決めてかかれないとゆるやかに壊されていきます。

私の書架には、二冊蔵う本があります。手沢本に「友へ贈る一冊」。そんな一書に「丸谷才一」の『笹まくら』新潮文庫。小説の、精巧微妙を賞玩するなら、お勧め。良心的兵役拒否者を美事にさばく。戦後の文芸その、贈答の佳作。

とくに気をつけてください。教育や医療、福祉など労働の成果が数値化して評価しにくい(してはならない)職ほど、その職業召命感が逆用されやすい「会社」風土にあることに、です。

こんなこと、あなたにとって、杞憂であればいいのですが。

さて、さきに、私が遇った三國連太郎の名をだしました。四月に亡くなりました。怪優でした。晩年の三國は、連作映画

★昨年10月改定につづき、本年4月より自動車保険は、ロード・サービス等を変更。くわしくは訪問の折、お尋ねくださいませ。

謹啓、平素は格別のご高配を賜り、ありがとうございます。本年も、自動車保険のご契約者みなさまの一年間の無事故を御祈りいたします。祈念の気持ちを込めて、素品を用意いたしております。ご契約の継続手続きの際にお届けいたします。小社からの花一輪をお受けといただければ、幸いです。店主 敬白

【お届けの押し花の葉は、山見共園作業所ひばりリショップ作成。手作製品多数取揃。各種製作応需。平塚市御殿1-17-1 ☎0463(31)0723】

『釣りバカ日誌』のスーさん役がひろく知られます。この温和でどこか滑稽な役からは伺えない、その人様は武骨でした。

敗戦からの復興期、娯楽はふくらみました。大映画会社はカルテルを結び、俳優がよその社の作品にでれないよう画策しました。協定と称し、オキテを俳優にゴリ押しする。己が利益のために他者ひとを囲い込む。三國は、ノーと言います。ブラック・リストがつくれ、筆頭だったそうです。干されました。

その後、米国の映画業界が三國を褒揚しようしました。「権威ある」と言われる賞は、内諾をえてから、発表するもんです。拒まれて、キズついた権威が露呈するのをおそれるんです。これも、ノー。「まあ、そう言わずに、黙って受け取っとけ」というのが、親身な忠告の相場でしょう。ちょっと考えて、そろばん弾いて、聞き容れるのが、さかしいアタマ。でも、断る。「業界が、業界内の少数民族に差別的だから」というのが、理由でした。

ゆずれぬ線があり、

すべからく、昂然と否む。

はじめの、おおきなダメ出しは、戦争でした。三國青年にとつて、「殺せとの命」=徴兵はダメ、なのでした。なのに、兵となれと青年を国家につきだした者がいました。彼は、この者を終生許さなかったそうです。肉親です。

「なにより、生きて帰ったんだ。目をつむってやれ」、これも相場です。そのうえ、血累は賤視されました。社会弱者は、強者におもねるのをも知恵と苦紛らわし、後日譚に曰く、「仕方がなかった。」「ならばいっそう、許せ」が、わが精神風土です。

血の情理を弄し、「イエ」の支点とし、作用力を増長していく権威・権力に三國は錐の目のような眼差しを注ぎつけました。イエであれなんであれ、関係態が高権(最優越)ならば、個人は存立しません。

境涯に屹立した個として格闘する親鸞との対話を繰り返し、もがいてきた三國。あの日の私の面前にいました。三國のがしりとしたウナジを想いいたします。残念なことに、親鸞とともに格闘する三國とは再びまみえません。

★ ★ ★

イギリス土産に頂いたヴァレリアンというハーブ茶、気に入りました。さっぱりしていて、ほんのりとしたまろやかな甘み、いいですね。リッチな焼き菓子よりガレットあたりが合いそうです。これからタネを仕込んで、明日はひさしぶりにクレーパンを火にかけてみます。うまいのかな？

お大切に。また、近況お便りください。

ふくしまっぴりフレッシュユビ太 主催 福島の子とたちと共に・西湘のきき 7/22(18/2、一〇家族二十七名を招く) 今年、やんちやな笑顔のために 捧げられた篤志に感謝